

基本目標	施策の方向	施策の展開【案】	調査結果・意見聴取より
基本目標1 (こども・若者) すべてのこども・若者の健やかな成長と自立を支える	1-1 こども・若者が権利の主体であることの共有と定着	1-1① こどもの権利・人としての権利の周知啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には自分らしさがある」割合が中2は低く、他は国の調査結果と同程度^① ・こどもの権利を「よく知っている+少しだけ知っている」の割合 小5:59.5%、中2:53.2%^① ・嫌なことの経験では、「暴言や傷つくことを言われた」「無視された」「暴力を受けた」の順に多い^① ・私の人生について、保護者と一緒に考えて決めている そう思う、まあそう思うの割合は小5 74.2%、中2 80.7%^①
		1-1② こどもの意見表明・参画の仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「市に自分の考えを伝えられているか」そう思う・まあそう思う割合が小5:62%、中2:50.5%、高校生:16.4%、学生一般:13.9%^① ・大人や行政の側が枠組みを作り、場所を設けて示すことも重要だが、こどもや若者が自発的・能動的に行動することに対して力を貸すことができれば、とてもやりがいのあるものになるのではない^① ・他大学の学生と交流し、意見交換を行いながら、市に対しての提案を行う^②
	1-2 困りごとに応じた支援	1-2① 経済的困難を抱える家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの若者のために小平市に必要な取り組みは一番多いのが「お金の心配をすることなく学べる(進学・塾に行くこと)を支援する」^①
		1-2② ひとり親家庭への支援	
		1-2③ 虐待防止の推進・ヤングケアラーへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的・精神的苦痛を受けた又は見た経験がある場合、自尊感情が低い傾向^① ・虐待行為があった場合「相談しない」割合各年代約15~23%^① ・家事や家族の世話をすることで及んでいる影響は宿題など勉強する時間や友達と遊ぶなど自分の時間がないと回答している人が一定数いる^① ・ヤングケアラーになった場合「相談しない」割合小5:40.9%、中2:50.1%^①
		1-2④ 障がいのあるこども・若者や発達に支援が必要なこども・若者への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校において合理的配慮の理解・啓発の推進、対応ができているか」特別支援学級【保護者】『そう思う』57.5%、『そう思わない』33.0%、特別支援教室・難聴言語【保護者】『そう思う』57.0%、『そう思わない』30.6%、通常の学級【保護者】『そう思う』38.0%、『そう思わない』16.0%^②
		1-2⑤ 自殺防止の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の将来に明るい希望をもっている」の「そう思う」「まあそう思う」割合 小5 71.8%、中2 59.4%、高校生 68.1%、学生一般 54.3% ・「そう思わない」小5 8.7%、中2 12.3%、高校生 8.6%、学生一般 17.4%^①
		1-2⑥ いじめ・不登校・ひきこもり対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、ひきこもりに対して偏見(家庭環境や親への誹謗中傷)がある。誰でも当事者となりうることを知ってもらい、世間に受入れてもらうことが当事者や家族の皆様の心の安定の一助になる^①
		1-2⑦ 外国にルーツをもつこども・若者への支援	
		1-2⑧ こども・若者に寄り添う相談体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・「相談相手はいない」小5:6.3%、中2:7.3%、高校生:1.3%、学生一般:1.2%^① ・悩んでいる人が孤立しないで済む相談しやすい仕組みづくりが必要^① ・当事者同士家族同士が気軽に触れ合い、専門家のアドバイスを受けながら相談できる場所の確保と仕組みづくりが必要^②
	1-3 こども・若者の自立に向けた支援	1-3① 社会で生きる力を育む機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていることや悩んでいること「インターネットやSNSの人間関係のこと」小5:4.9%、中2:4.9%、高校生:1.3%、学生一般:2.5%^① ・携帯電話やスマートフォンを使っていてあてはまること「友だちとトラブルになったことがある」小6:4.4%、中1:9.9%、中3:10.8%^③
		1-3② 体験や交流ができる機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ・小平市で行っているイベントをもっと周知してほしい^④ ・乳幼児～小学生の楽しめる場所、環境(今回のイベントのようなもの)をもっと増やしてほしい^⑤

基本目標	施策の方向	施策の展開【案】	調査結果・意見聴取より
基本目標2 (家庭) ライフステージに応じて切れ目なく支援する	2-1 ライフステージに横断した取組	2-1① 総合的な子育て支援情報の充実	・市公式X、市公式LINE、その他の市公式SNS、こだっこ予防接種&子育て応援ナビは「全く得ていない/知らない」が最も多く、子育てガイドは「あまり得ていない」が最も多い⑥ ・こども、若者が活躍できる機会や、居場所となる施設などたくさん用意されているが、こどもや親が自分のニーズとのマッチングに迷い、結果的にどこを利用しようか決めかねて、アクセスしにくくなっている④ ・特に充実・改善してほしい学校の教育環境「ICT機器を活用した教育を推進するための施設整備や情報機器の充実」41.9%③
		2-1② 経済的負担の軽減	・これからの若者のために小平市に必要な取り組みはで一番多いのが「お金の心配をすることなく学べる（進学・塾に行くこと）を支援する」④ ・「希望と現実にギャップがあるとしたら、それはなぜか」多い順に「子育てや教育にお金がかかるから」52%、「高年齢になってしまいうから」40%、「育児の精神的・肉体的負担が大きいから」28%⑥
		2-1③ 子育て家庭の健康の維持・意識啓発	朝ご飯を毎日食べる割合（H28, R4年度調査比較）割合増加：小3、割合減少：小6、中1③
		2-1④ 家庭における子育て・親育ちを応援	・家族の役割として重要だと思うこと「家族のだんらん」の場」「休息・安らぎの場」が多い④ ・非行防止に大切なことで多いのは「保護者が手本となるような生活態度を示すこと」「大人が自主性を尊重し、過保護、過干渉にならないようにすること」「居場所や遊び場を作ること」が多い④
		2-1⑤ おとなになることの意識醸成	・おとなになったら「こどもを育てたい」小5:59.3%、中2:50.1%④ ・「自分の将来に明るい希望をもっている」が中学生・学生一般でこども大綱現状より低い④ ・困っていることや悩んでいることで、勉強のこと、進学のこと、将来のことが多い④
	2-2 こども誕生前～幼児期の取組	2-2① 産前・産後期の支援体制の充実	・「希望と現実にギャップがあるとしたら、それはなぜか」多い順に「子育てや教育にお金がかかるから」52%、「高年齢になってしまいうから」40%、「育児の精神的・肉体的負担が大きいから」28%⑥ ・妊娠中から継続した支援をし、子育てにつまずいた保護者がすぐに相談でき、早い時点で解決できるような相談場所（SNSも含む）の確保④
		2-2② 幼児教育・保育等の充実	・子育ての環境や支援についての意見「保育園（所）、幼稚園の充実・増設、制度の改善」が最も多い⑤
		2-2③ 幼児教育・保育と小学校教育との円滑な接続	・こどもが小学校に入学した後に、心配なことは特にないと回答した人のうち、平成28年度調査と比較すると「幼稚園・保育園で小学校入学にあたっての準備や練習を行っているから」「こどもに十分な適応力があると思うから」の割合が増加③
	2-3 学童期～思春期の取組	2-3① 教育の充実	・ほっとできる場所で「学校の教室」の割合小5:34.3%、中2:25.6%④ ・こどもには、教育が第一。学校が楽しいところ、集うところ、魅力のある場所であってほしい④
	2-4 青年期の取組	2-4① 若者との連携の推進	こども、若者世代には、長い目で見守り、寄り添える大人の体制が必要。また何か活動したいグループをプレゼンで決め支援するなど、若者のパワーに期待する事が大切④
		2-4② 若者支援の充実	・市に自分の意見が伝えられていないと思う理由は「市の制度や取り組みについて知らない」が小5:5.5%、中2:9.4%、高校生:16.2%、学生一般:14.1%④
		2-4③ 居住・就労などの生活支援	・将来の不安で高校生年代・学生一般で最も多いのが収入・生活費④ ・就職していない理由として、「自分に合った仕事が見つからない」「何らかの仕事につきたいが、求人がない」「健康上の理由」が多い④

基本目標	施策の方向	施策の展開【案】	調査結果・意見聴取より
基本目標3 (地域) 地域で安心して子育てができる環境を整える	3-1 子どもと地域の連携体制の強化	3-1① 地域人材等との連携の推進	・子ども・若者や子育て世代に不足しているサービスや支援は「支援活動団体のPRと支援者の人材育成の充実」【青少年委員等】 [Ⓐ] ・地域の人と仲が良い小5は69.0%、中2は62.7% [Ⓐ]
		3-1② 地域とつながり、育ち、育てる事業の推進	・「現在地域活動に参加している」は高校生：6.7%、学生一般：5.2%、参加している地域活動は「自治会・コミュニティなどの地域活動」「スポーツ活動」 [Ⓐ]
		3-1③ 子どもの多様な居場所づくり	・ほっとできる場所が多いほど自己肯定感が高い [Ⓐ] ・遅くまで使用できる自習室がほしい [Ⓔ]
		3-1④ 子ども・若者を温かく見守る地域づくり	・地域での顔見知りをたくさん作ることで、大人も子どもも安心安全に暮らせる。そのために地域の方が安心して関わられる居場所、体を動かせる場所を沢山作ってほしい [Ⓐ]
	3-2 安全・安心な環境の整備	3-2① 非行防止・有害情報への対応	・非行防止に大切なこと「学校での社会のモラルや道徳を教えること」高校生：15.9%、学生一般：19.5% [Ⓐ]
		3-2② 地域安全活動の推進	・通学路に古くなった空き家があって不安 [Ⓔ] ・居住地域周辺で危険な目にあったこととして、「自転車にぶつかりそうになった」「車やバイクにぶつかりそうになった」が多い [Ⓐ]
		3-2③ 男女共同参画社会の推進	・【現状】の家庭の家事・育児・介護の役割分担について全体では「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が31.7%、「男性が仕事、女性が家事・育児・介護を分担する」(28.6%)、「男女ともに仕事をし、家事・育児・介護も役割を平等に分担する」(8.9%) [Ⓔ]

Ⓐ子ども・若者の意識・実態調査報告書（令和7年3月）

Ⓑ小平市の特別支援教育に関するアンケート調査報告書（令和7年4月）

Ⓒ小平市の教育に関するアンケート調査 調査結果報告書（令和4年3月）

Ⓓ小平市男女共同参画推進に関する市民意識・事業所実態調査報告書（令和3年1月）

Ⓔ小平市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書（令和6年8月）

Ⓕ個別に実施した意見聴取